



自閉症のある子どもの指導目標のつながりを意識した授業実践 —長期目標の達成に向けた段階的な目標設定と児童の興味・関心を重視した授業実践—

独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所
自閉症教育研究室

問題と目的

- 自閉症のある子どもにおける実態の多様性
→指導目標や目的をしっかりと定めることが必要 (Magnusen, 2005)
 - 個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成
→見通しをもった計画的な指導・支援を行うために有効
- しかし・・・
- ・目標が曖昧になりがち (長沢ら, 2004)
 - ・長期目標と日々の指導との関連の薄さ (長沢ら, 2004)
 - ・卒業までに子どもに身に付けておくべき力をどのように積み上げて指導するかのわかりにくさ (一木ら, 2010)
 - ・設定された目標と評価は具体的であるが、その目標を導き出した背景や根拠が把握できず、次の目標の方向性が見えないため、設定した指導目標や指導内容に確信がもてない (一木ら, 2010)
- 自閉症のある子どもの指導において、明確な目標を見据えて指導を積み上げていくことが大切**

本研究の目的

- 特別支援学校(知的障害)に在籍する自閉症のある子どもを指導する担当教員は、**どのような視点や意図で指導目標を設定し、見直しを行っているか**
- 目標のつながりを意識した授業実践を通して、担当教員自身の指導や自閉症のある子どもにどのような変化がみられるか**について検討する

方法

- 対象: B特別支援学校(知的障害)に在籍する自閉症と診断を受けている小学部2年生のA児(女兒、重度)の担任
教職経験年数12年、特別支援学校経験年数12年
B校での勤務は3年目、昨年度から引き続き、A児の担任
- 対象授業: 自立活動(個別の課題学習)
B校では、国語・算数・自立活動は「個別の課題学習」として位置づけて実施
- データ収集内容と分析方法
 - ①A児の実態と指導方針に関する聞き取り
 - ②個別の指導計画における対象授業の目標について協議
 - ・長期目標(1年)と短期目標(半年)、及び対象授業の目標設定の背景や意図に関する聞き取り
 - ③目標のつながりを重視した授業実践と授業記録の収集
 - ・授業実践期間: X年5月～11月
 - ・毎時の授業目標やその設定理由、本時の子どもの様子、目標の達成状況、教師の指導の振り返り、次時の指導目標と改善点について記録をとってもらった
 - ④授業記録の分析
 - ・授業記録を基に、担任がどのように目標のつながりを意識し、どのような視点や意図で目標設定や見直しを行っているかについて協議(1回/月程度、計6回)。さらに、目標のつながりを意識することによる担任の指導やA児の様子について分析

結果及び考察

1. A児の実態及び実践研究当時の目標設定と担任の意図

A児

自分の思いや要求を伝えるために身振りや表情、簡単な言葉を使用することができるが、言葉の意味を理解できていないことが多い
内容によっては、相手の働きかけを受け入れることが難しい

個別の指導計画における各目標(前期)	
長期目標(1年間) ※②が主に取り上げる目標	①日常生活動作で手洗いや排尿後の処理など、一人でできることを増やす ②本児の好きな活動を通して、教師と言葉を使つてのやりとりを増やす ③言葉や文字などを使って、教師とやりとりし、自分の気持ちに折り合いをつけたり活動に向かったりすることができる
自立活動の短期目標	教師と交互に物を操作して、ゲームすることができる

2. 日々の授業目標のつながりを意識した授業実践

自立活動(個別の課題学習)で取り上げた題材と目標の例

題材	A児の目標
黒ひげ危機一髪ゲームをしよう	①黒ひげ危機一髪ゲームに取り組みながら、交互に物を操作することができる ②相手に「どうぞ」と言って物を渡したり、相手と視線を合わせて物を受け取ったりすることができる ③飛び出すことを期待し、楽しんだり驚いたりした気持ちを表情や言葉で表現したり、教師と共有したりする
ブロック遊び	①教師と交互に見本ブロックを作ったり、相手と同じ形にブロックを組み立てたりする活動を通して、交互で活動することを意識したり、相手が操作する様子に注目したりすることができる ②「できた」などの言葉を使って、相手に伝えることができる

指導目標を意識しながら柔軟に題材を変更・・・A児の嫌な気持ちを受容したり、A児の興味を重視

3. 後期の個別の指導計画の各目標(見直し後)

個別の指導計画における各目標(後期)	
長期目標(1年間) ※修正された目標のみを示す	②本児の好きな活動を通して、身近な人や物の名前、動作を表す言葉などを理解したり、教師と言葉を使ったやりとりをしたりする
自立活動の短期目標	教師の描いた絵をまねして描いたり、色を塗ったりすることができる

4. まとめ: 目標のつながりを意識することによる担任の気付き

目標のつながりを意識することにより日々の指導目標が明確になりました!
子どもの主体性を引き出すためにどのような指導が必要か考えるようになりました!

「次は先生ね」の声かけ、A児の顔をのぞき込み、視線を合わせる等の働きかけが見られた

段階的に目標を設定

「先生が作るよ。(略)赤を重ねて(略)」と状況を言葉で説明。「できた?」とA児に視線を合わせる働きかけを重ねることで、A児からの「できた」という反応を促した⇒ **A児自ら担任に視線を合わせて笑う、「できた」と報告する様子**が確認

長期目標の具体化・重点化

長期目標と自立活動の目標とのつながりは?

②「人とのやりとりを増やす」という長期目標の達成のためには、
・相手の状況を意識し、理解すること、
・やりとりが楽しい経験となることが必要
そのため、A児が好きなゲームを取り入れ、交互に操作することを通して、A児が担任を意識し、そこで生まれるやりとりを楽しむ経験を増やしたいと思いました

付記: 本研究にご協力いただきましたA児や担任の先生、B校の先生方に深く御礼申し上げます。本研究は、A児の保護者及びB校の承諾を得て実施しました。本実践研究は、当研究所の研究成果報告書に掲載されています。